

保育士賃金改善

多摩NTに福祉施設

舛添氏、独自の少子高齢対策

東京都知事選で200万票余りを獲得して初当選した元厚生労働相の舛添要一氏(65)。投票から一夜あけた10日、朝から始動した。介護士と保育士の報酬アップや、高齢化が進む多摩ニュータウンでの福祉施設増設など、早くも独自の政策構想を打ち出した。

▼13面「結果こそ政治」

NHKのテレビ番組に出演した舛添氏は、保育士や介護士について「人材確保が最大の課題だ。非常に賃金が安い」と問題提起。それぞれの賃金上乘せについて言及し、「都の予算ならできる」と述べた。

厚生労働省によると、昨年6月時点の業種別の平均月給は、介護士を含めた

「福祉施設介護員」が21万8400円、保育士が21万4200円で、全体平均の32万5600円より低い。舛添氏は「都知事の立場なら厚労相でできなかったことができる。いい成果になれば、福祉の東京モデルとして日本中に広がる」と意気込みを見せた。

都知事選で「東京を世界

一の街にする」と掲げた舛添氏。空いている都有地を使って介護施設や保育所を造る案にも触れ、「都有地は都民のものだから安い賃料で提供する」と述べた。

都内各地に高齢化が進む地域がある。多摩ニュータウンなどについては再開発で建物が高層化された場合は、1、2階のスペースは商業施設だけでなく、特別養護老人ホームや保育所を置くなどの構想を提案した。

都知事選で応援演説を受けた安倍晋三首相との関係については「財政負担の面で見解が対立すると思う」。

意見を申し上げるべき時はしっかり言う」と述べた。今回の都知事選は、猪瀬直樹前知事の辞職で実施された。テレビ出演後、舛添氏は「前知事の不幸事で都政に対する信頼感は相当失われている」と語り、信頼回復をめざす考えを示した。



安倍晋三首相は10日朝、「舛添さんが都民の皆さんの支持を得て当選してよかった。2人で力を合わせてすばらしい(2020年の東京)五輪、パラリンピックにしていきたい」と首相官邸で記者団に語った。

2014年(平成26年)2月13日(木曜日)

【可】

駅構内に保育所増設

舛添知事 首都高、五輪にらみ改修

東京都の舛添要一知事は12日、初登庁し、職員に対し「強い決意で様々な改革を断行する」と述べた。同日の記者会見では2020年東京五輪をにらみ、老朽化の進む首都高速道路の改修を急ぐ考えを表明。待機児童対策では駅構内の保育所を増やしたいとの意向を示した。都議会への挨拶回りでは「しっかりスクラムを組みたい」と友好ムードをアピールした。

舛添知事は職員への挨拶で「一人ひとりが天に恥じない仕事をする」とき、必ずや(前知事の資金受領問題で失われた)都民の信頼が回復する。その努力の先頭に私が立つ」と呼びかけた。

記者会見では首都高速道路の大規模改修を「20年に向けてやりたい」と表明。約10年とされる改修計画を前倒しする方向で、財源も含め国などと協議する方針を示した。

会見では子育て支援の拡充も強調した。選挙期間中に鉄道各社の社長と面談し「満員電車で揺られて子供を(勤務先まで)連れていけない。駅で預

けられないか」と、駅構内などへの保育所増設について協力を要請したと口を掲げていた。



記者会見する舛添要一都知事(12日、都庁)

防災や東京五輪については「広域でやらざるを得ない」として他県と協力する姿勢を示した。五輪に比べ低額とされるパラリンピックの報奨金の額を都が独自に引き上げる考えも明らかにした。